




阿寺山地 高樽山(1672.8m) (積雪期ピークハント/縦走 / 中央アルプス)

by 
gekiyabu

日程 :

2012年04月08日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

快晴

地図 :

WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

5:34 ゲート--6:03 林道分岐--8:43 真弓峠--8:48 尾根取付 9:18--9:44 県境稜線--
9:59 高樽山 10:20--10:43 真弓峠--10:47 1460mで林道を離れる 11:07--1200mで
林道に乗る--11:59 890m鞍部で林道を離れる--12:09 林道--12:11 ゲート

注:下りでは2か所で林道をショートカットしている

コース状況/その他周辺情報 :

- ・ 真弓峠まで林道があるが県境稜線は道無しで激笹藪
- ・ 登山ポストなし
- ・ 林道は2つ目のカーブ(標高760m)にゲートあり
- ・ 林道は登りが続き自転車を押して上るのはきつい。歩くのが無難

- ・ 県境稜線は登山道無く笹藪だがこの時期は雪に笹が埋もれて快適に歩ける
- ・ 1660m峰は伐採地で展望良好
- ・ 山頂は東側が伐採地で展望良好

 写真 :



旧加子母村境界ゲート。冬季閉鎖は4/1で解除



林道分岐の案内標識



林道分岐の車止め。進入禁止の看板は無く、ロープは手で外せる



2つ目のカーブ(標高760m)にゲートあり



真弓峠方面林道の分岐(左)



基本的に道は良好だが雪解け直後で未整備の部分あり



日当たりの悪い場所は新雪が積もる



間もなく真弓峠。南側につけられた林道はきれいに雪が消えている



真弓峠ゲート。このすぐ奥にもゲートあり



王滝側の林道はブルドーザで除雪してあった



北斜面のこの谷を登った



伐採地の藪は雪に埋もれて完全に消えていた



新雪はこれくらいの深さ



間もなく県境稜線。鹿避け柵があったが大半が雪に埋もれて簡単に越えられた



県境稜線。直上でも藪は雪の下で歩きやすい



1660m峰。王滝側は伐採され展望良好



1660m峰から見た木曾御嶽



1660m峰から見た高樽山



1660m峰から見た井出ノ小路山。今の時期なら藪の心配なく縦走可能



高樽山へ最後の登り



1650m鞍部から見た岐阜西部の山々



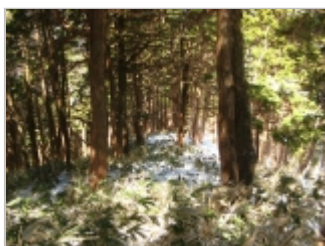
高樽山山頂



高樽山山頂東から見た中央アルプス



下山は県境稜線を真弓峠まで辿る



尾根上の笹と残雪はおおよそこんな感じ



真弓峠直前のみ笹藪横断

東斜面側は残雪が多く歩きやすい



真弓峠から見た県境稜線

眼下に林道が見えてきた



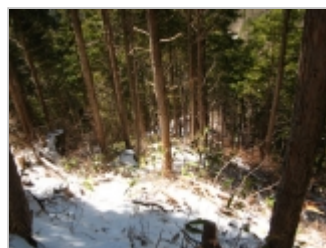
標高1460mで林道を離れ尾根を下り始める



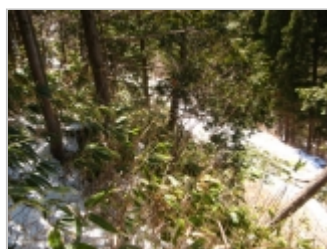
僅かに進むと想定外の作業道が登場



作業道は続く



傾斜が急になっても尾根上に道あり



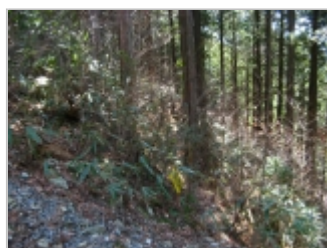
林道直上で作業道は崖を避けて左にトラバース



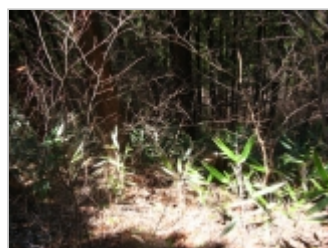
林道に出た。作業道入口に赤テープを残した



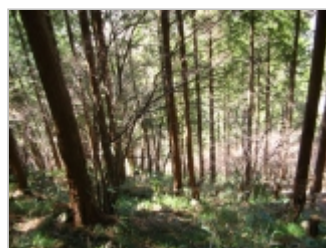
標高890m鞍部でも林道シヨートカット取行



作業道が尾根沿いに延びているが、斜面を真下に向かう



斜面入口。かなりの急斜面で木に掴まないと転げ落ちそう



この付近は傾斜が少し緩んで安心して歩ける



笹藪登場だが下りでは問題なしのレベル



林道直前は灌木藪がうっとうしい



林道に降りた場所から下ってきた斜面を見上げる



ゲートまで2分の場所で林道に出た

感想／記録 : (by gekiyabu)

概要

残雪期に真弓峠へ至る林道経由で登る。林道も一部残雪に覆われて新雪ラッセルがあったが、県境稜線の笹藪が雪に埋もれたメリットの方が大きい。北斜面の藪は完璧に雪に埋もれていたが南斜面の雪はほぼ消えていた。稜線直上は場所により藪が出かけていた。伐採地では障害物ゼロで大展望を楽しめた。山頂は木に囲まれているが東側は伐採地で展望良好。帰りは林道を2か所でショートカットし、所要時間を大幅短縮できた。特に標高1460m～1200mショートカットは作業道もあり効果的。

高樽山は阿寺山地の岐阜/長野県境に位置する。阿寺山地の県境で登っていないのはここだけなので早めに登りたいと考えていたが、まだ残雪を利用して登れそうで挑戦することに。3月に行った時は付知峠を遡ったが旧加子母村との境界で林道のゲートが閉まっていて諦めたが、4/1に開通する旨書かれていたのでもう問題なし。林道歩きが長いが仕方ない。

井出ノ小路沢谷いの林道起点は車止めがあるが手で外せるし進入禁止の看板も無いのは知っているのでロープを外して車で乗り入れ、2つ目のカーブでゲートが登場、その前の駐車スペースに車を置く。ここから長い林道歩きが始まる。

地図を見ると2か所で林道をショートカットすれば効率的なのだが、南斜面で登りでは藪があったら面倒なので往路は素直に林道を歩く。最初の林道分岐を左へ。真弓(王滝)が目印だ。その後はずっと道なり。北斜面では雪が出てくるようになり新雪が深い

場所もあり、昨日の疲労で足が重い。よほど休もうかと思ったが我慢して真弓峠まで歩く。峠にはゲートが2つあり両方とも施錠されていた。管轄が美濃と木曾で違うのかも。

峠から県境稜線が始まるが下部は笹が出ていること、稜線上に雪があるか不明なことから確実に雪が残っているであろう北斜面から稜線を目指すことにした。途中のピークをパスして山頂にダイレクトに登る斜面に取り付くことも考えたが、それにはまだ30分くらい林道歩きが加わりそうなのでパス。木曾側の林道に合流するとブルドーザで除雪した跡があり、轍は圧雪され格段に歩きやすい。既に出発から3時間経過、最初のカーブから北斜面で伐採された真っ白な広い谷を登ることにして入口で休憩。

結構な傾斜でこの先はワカンを着用。新雪の下は堅い雪で滑りやすく、立ち木が少なくストックも無いので、ワカンの歯のグリップだけが頼りだ。アイゼンの方が良かったなあ。最初だけクリアすればあとはワカンでも楽に登れるようになるが、昨日の疲労で直線的に登れずジグザグを切って傾斜を緩やかにする。今は一面の雪原だがたぶん無雪期は笹藪だろう。雪に大半が埋もれた鹿避けが周囲を覆っているので伐採して植林がまだ小さいのだろう。

高度を上げて雪に埋もれた鹿避け柵を越える(というか跨ぐ)と背の高い檜植林に入る。ここはさらに新雪下の雪が硬くなり、ワカンの歯では歯が立たない場所がありずり落ちそうになる。やっぱりアイゼンの方が。稜線に出れば傾斜も緩み安全地帯。尾根上は笹が出てしまっているかと思いきや、直上は少し笹が出ているが十分に雪に埋もれて問題なかった。帰りは県境稜線を下っても大丈夫だろう。

1660m峰に上ると北斜面の植林が切れて大展望が広がる。真っ白な木曾御嶽に中央アルプス。足元は笹藪ではなく雪原で、積雪は1mくらいあるのだろうか。これなら山頂まで笹は無さそう。尾根が右に屈曲する部分で檜植林に突入、小鞍部に下っていくと南斜面となるせいか笹が顔を出している部分も多いが、まだ雪がつながっており笹漕ぎ無し。鞍部のみ西側の展望が開けて小秀山がすっきり見えた。あちらの方が標高が高いので、こちらよりずいぶん白い。

最後の登りもたっぷりの雪で笹藪は完全に埋もれて一面の雪原。そしてピークに立つとてっぺん付近と西斜面のみ木が生えて山頂は展望がなかった。山頂標識が一つ掲げられていたが、その高さから考えて無雪期に付けられたとしたら積雪は1mは無さそう。ただし、すぐ東側が雪底気味で盛り上がり、ここは2mくらいありそうだった。山頂直下東の日当たり&見晴らしの良い伐採地に下って休憩。昨日は雪雲に隠れていた中アはすっきりと見えていた。

下山は真弓峠まで県境稜線を下ったが、尾根末端以外は雪で笹を避けられて快適だった。

た。この春は山の上では雪の日がけっこうあって(毎週雪に降られている)、そこそこの標高があればたぶん3月半ばから積雪量は減るところか増えているのではなからうか。今後の天気は分からないがまだ雪が降るならばあと2,3週間は笹藪を回避できそう。

再び長い林道歩きが始まるが、帰りは2か所で林道ショートカットを実行することにした。地形図を見ると真弓峠付近の林道は一度大きく南に曲がって標高を落として北に戻ってくる。峠から下り始めて最初のカーブ、標高1460m地点から尾根に取り付き、その尾根を下ると標高1200m付近で林道に出られる。また、ゲート付近では林道は一度東方向に大きく進んで標高を上げ西に戻ってゲート付近のすぐ近くまで戻ってくるため、ここもショートカットすれば大幅に効率向上できる。ただし、どちらも南斜面や西斜面なので雪は期待できず笹藪が予想され、登りでは使いたくなかった業だが下りならメリットは大きい。

まず最初のショートカット。カーブから笹藪の尾根に突入。しかし想定外の事態が。最初の10mほどは笹だったがそこから先は軽く笹が刈られた道があったのだ! 下っていくとその道は尾根直上に延々と続いている。部分的に薄い区間もあるが、それは周囲の笹も薄いからで歩きにくいわけではない。尾根末端は傾斜が急で露岩マークもありうまく林道に着地できるか心配していたが、これなら安全なルートで下ろしてくれそう。標高1250mを切って傾斜がきつくなっても尾根上に道は続き、林道のすぐ上に出て左に迂回。これは林道は法面で直線的に下れないからだ。安全に林道に出られるところまで作業道はトラバースし、無事に林道に降り立った。作業道は薄く林道を歩いていて入口はほとんど確認できないため、ここに赤テープを巻いておいた。無雪期でもこの尾根は利用価値が高いと思う。

今度こそ長い林道歩き。雪の上の足跡は往路の私のものだけ。標高890mで林道が尾根を乗り越えて右に大きくカーブする切通しで2度目のショートカット。この尾根上には作業道があり、たぶん尾根上にずっと続いていると思われるが、それを辿るより計画通りここから直線的に下る方がずっと距離が短くてすむため、下を目指す。植林で本当にこの下に林道があるのかは確認できなかった。

出だしは地形図通りにかかなりの傾斜で薄い笹や灌木に掴まりながら慎重に下る。こけたらそのまま転げ落ちそうな斜面でピッケルが欲しいくらいだ。少し進むと傾斜がやや緩んで普通に下れるようになり一安心。ここまではほとんど藪はなかった。さらに下ると笹藪登場。周囲は灌木藪に変わってきて、まだ笹の方が掻き分けやすいので笹の中を泳ぐ、といっても下りなので楽々だ。最後は灌木藪となり林道に降り立った。林道から下ってきた斜面を見上げるとかなりの傾斜で、登りで使うにはそれなりの覚悟が必要だろう。

ゲートはもう見えておりゴールイン。車が1台増えていた。

<http://www.yamareco.com/>